



琉球日本支那三國關係正誤

一號



1072



424
A 741
1

大正十一年二月
大隈侯爵邸寄贈

藤井善言 譯

千八百七十九年八月十二日刊行横濱佛字新聞「クローリエー、ゲニ、
ジヤッボン抄譯

琉球日本支那三國ノ關係

今ヤ琉球日本支那三國ノ關係ハ新々ニ一場ノ論題トナレリ此
時ニ當テ往古ヨリ今世ニ至ルマテ三國ノ間ニ成立チシ關係ヲ
叙述スルハ蓋シ無益ニ非ル可シ

抑モ琉球ノ諸島タルヤ土人ハ之ヲ総称シテ「ロー、チヨー」ト言ヒ
支那ハ之ヲ琉球ト呼ビ日本ハ之ヲ「リウ、キウ、ハ、沖、島」ト名ツ
ケ満州人ハ之ヲ「リオ、チオ」ト云フ(1) 島嶼大小三十七ニシテ日本
ノ南西ニ在リ常ニ日本ト厚ク交親セリ其事蹟ハ單ニ口碑ニ傳
ヘ史乘ニ載スル所ヲ以テ証シ又民事財務ノ制度ヲ同フスルヲ
以テ証ス可キノミナラズ猶且風俗言語ノ相近キヲ以テ判然明

篇中(一)ノ内ニノ
ノ數字アルハ註解ノ
合印ナリ是レハ附録
譯出
譯者謹述

証ス可シ

日本ノ舊記ヲ案スルニ帝國ノ創業主タル神武天皇ノ母ハ海龍ノ女ナリト註ニ曰ク所謂海龍ナル者ハ彼ノ自ラ称シテ天神ノ姪ナリト云フ(2)琉球王ニシテ即チ日本帝統ノ出所ト系統ヲ同フスル者ナリト

又其制度ヲ考フルニ琉球ハ近日ニ至ルマテ政府ヲ四大部ニ區分セリ其一ハ裁判部ニシテ^{評定}シヨト云フ其二ハ管理部ニシテ^{奉行}リユ、ギョー、シヨト云フ其三ハ諸士部ニシテ^{経標}キン、シシ、カタルト云其四ハ監察部ニシテ^{経標}ジヨ、コメ、カタト云フ此制度ハ千八百六十八年ノ王政復古前ニ行ハレシ日本ノ制度ト相當スルモノナリ(3)
又琉球ノ^梅アンジ^上上等貴族「テンソイシ」王ノ近親ノ設置方ハ亦々日本ノ「オーナ」大名「サンゴ」三種ノ爵位ニ相當ス

又錢穀ノ事ヲ察スルニ「コク」ノ称ハ今猶ホ貢租官俸等ノ計算ニ用ユ「コク」ハ支那文字ノ斛ニシテ其量ハ十「ツ」(斗)ニ當リ支那ノ日方百斤ニ當ルモノナリ然レ氏支那音之ヲ「コ」ト云ヒ「ク」ト云フハ和音ナリ又島内ニ流通セシ貨幣ハ久シク寛通永寶ノ文字ヲ鑄タル日本ノ小銅貨ノミナリキ又路程一里ハ日本ノ如ク三拾六町ナリ(4)

又結婚ノ制ヲ案スルニ琉球ニテハ日本ニ行ハル、ガ如ク只貴族ヲ除クノ外男女自由ニ交通シ其好ム所ニ從テ婚姻ヲ議スルヲ許ス支那ノ法度ト異ナリ(5)又饗燕ニ行フ儀式及ヒ家中ニ倚子食卓オノ設ケナキ及ヒ衣服ノ着様ハ日本ト符節ヲ合スガ如シ(5)又宗教ハ日本古^代神道ナリ加之琉球人ト薩州人トニ近接セバ必ス兩國人ノ相貌骨格ノ宛然一樣ナルヲ証セン又琉球人ノ祭スル言語ハ全ク日本人ト類似シテ日本ノ國語ヨリ分派

神道ニ神武天皇

スルニ帝國ノ創業主タル神武天皇ノ母ハ海龍
曰ク所謂海龍ナル者ハ彼ノ自ラ稱シテ天神ノ
琉球王ニシテ即チ日本帝統ノ出所ト系統ヲ同

ルニ琉球ハ近日ニ至ルマテ政府ヲ四大部ニ區
判部ニシテ「^{評定所}ミヨ、^{評定所}シヨ、^{評定所}シヨト云フ其二ハ管理
ヨ、^{評定所}シヨト云フ其三ハ諸士部ニシテ「^道キン、^道シ、
監察部ニシテ「^{経横目方}ジヨ、^{経横目方}コメ、カタト云フ此制度
平ノ王政復古前ニ行ハレシ日本ノ制度ト相當

上等貴族「^テンソイシ」王ノ近親ノ設置方ハ亦
大名「サンゴ」三種ノ爵位ニ相當ス

又那文字ノ斛ニシテ其量ハ「^斗ツ」ニ當リ支
備ルモノナリ然レ支那音之ヲ「^斗ト云ヒ」コ
ナリ又島内ニ流通セシ貨幣ハ久シク寛通永寶
日本ノ小銅貨ノミナリキ又路程一里ハ日本ノ

又自由ニ交通シ其好ム所ニ從テ婚姻ヲ議スル
又ト異ナリ「^斗」又饗燕ニ行フ儀式及ヒ家中ニ倚
キ及ヒ衣服ノ着様ハ日本ト符節ヲ合スガ如
本古代ノ神道ナリ加之琉球人ト薩州人トニ近
人ノ相貌骨格ノ宛然一樣ナルヲ証セン又琉球
全ク日本人ト類似シテ日本ノ國語ヨリ分派

神道ニ神武天皇ノ宗教ニシテ日本固有ノ宗教ナリ琉球外曾ニ他國ノ行ハレ

セル方言タルヲ証スベシ仮令斯クノ如ク論及セズシテ分派セ
ル方言ニハ非ズト言フ者アルモ兩國言語ノ關係ハ兄弟ノ如ク
極メテ相近キモノナリト云フニ至テハ同意ナラン(76)借又地理
ヲ以テ説ク片ハ支那ノ文人ガ云ヘル如ク琉球ハ遠ク支那ヲ隔
テ近ク日本ニ接ス一葉ノ扁舟以テ薩州ニ渡ル可シ其北京ヲ去
ルヤ波濤萬里其間逆浪暴風ヲ避ク可キ所ナク堅牢ノ大船ヲ以
テ航行スト虽氏猶且覆溺ノ虞アリト(8)

日本ノ学士中是等ノ事情ヲ對照比較シテ日本南方ノ人ト琉球
人ハ蓋シ同一種

球人屢々九州ノ地

ノ世々至チ入寇

人ハ黑瀬川(外國)

南ヨリ東北ハ流ル、急潮ナリニ浴テ薩州ノ南鬼界ヶ島大島得

能島ヲ經テ日向ノ東岸ニ達シ尋テ九州ノ東南ニ蔓延ヤシモノ
ナラン抑モ薩人ガ鬼界ヶ島大島得能島ニ附スルニ道ハ島ノ名
ヲ以テスルハ是等ノ緣故ナランカ(78)且琉球ト九州ノ間ニハ季
候ニ從テ東北ヨリ西南ニ向ヒ或ハ西南ヨリ東北ニ向フ時令ノ
風アリ又彼ノ往復ノ急流アリ要スルニ琉球ヨリ入寇ノ者ハ此
水路ヲ往來ノ通路トセシナラン是等ノモノハ皆悉ク日本人ガ
説ク所ノ事ヲシテ益々實著ナラシムル偶然ノ憑証ナリ加之若
シ舊記ニ從ヒ日本建國ノ始祖ヲ以テ琉球ヨリ出テシ者ト為ス
ニ非レバ此始祖ハ何レヨリ来リシ者ト為スヤ是亦前説ノ実ヲ
証スル一端ナリ(10)且夫琉球人ガ西曆六百七年ニ當リ支那ノ大
軍ニ抗シテ剛強不屈ノ勇アリシヲ以テ察スレバ軍人ノ氣象ヲ
備ヘシ者ナリ然レテ先正天皇ノ世即チ西曆七百十五年ニ當リ
日本ヨリ孔子ノ学ヲ入レシニ依テ尔来固有ノ氣象ヲ失テ文弱

セル方言タルヲ証スベシ仮令斯クノ如ク論及セズシテ分派セ
ル方言ニハ非ズト言フ者アルモ兩國言語ノ關係ハ兄弟ノ如ク
極メテ相近キモノナリト云フニ至テハ同意ナラン(76)借又地理
ヲ以テ説ク片ハ支那ノ文人ガ云ヘル如ク琉球ハ遠ク支那ヲ隔
テ近ク日本ニ接ス一葉ノ扁舟以テ薩州ニ渡ル可シ其北京ヲ去
ルヤ波濤萬里其間逆浪暴風ヲ避ク可キ所ナク堅牢ノ大船ヲ以
テ航行スト虽凡猶且覆溺ノ虞アリト(8)
日本ノ学士中是等ノ事情ヲ對照比較シテ日本南方ノ人ト琉球
人ハ蓋シ同一種人ナリトノ説ヲ吐ク者多シ其説ト由テ往古琉
球人屢々九州ノ地方ヲ侵シ耶蘇紀元前七百紀中即チ神武天皇
ノ世ニ至テ入寇ヲ終トリト此説ヲ実事ト見做ス片ハ蓋シ入寇
人ハ黑瀬川(外國地圖ニ「クロシオ」ト稱スル所ニシテ冬春ノ際西
南ヨリ東北ニ流ル、急潮ナリ)ニ浴テ薩州ノ南鬼界ヶ島大島得

能島ヲ經テ日向ノ東岸ニ達シ尋テ九州ノ東南ニ蔓延セシモノ
ナラン抑モ薩人ガ鬼界ヶ島大島得能島ニ附スルニ道ハ島ノ名
ヲ以テスルハ是等ノ縁故ニランカ(78)且琉球ト九州ノ間ニハ季
候ニ從テ東北ヨリ西南ニ向ヒ或ハ西南ヨリ東北ニ向フ時令ノ
風アリ又彼ノ往復ノ急流アリ要スルニ琉球ヨリ入寇ノ者ハ此
水路ヲ往來ノ通路トセシナラン是等ノモノハ皆悉ク日本人ガ
説ク所ノ事ヲシテ益々實著ナラシムル偶然ノ憑証ナリ加之若
シ舊記ニ從ヒ日本建國ノ始祖ヲ以テ琉球ヨリ出テシ者ト為ス
ニ非レバ此始祖ハ何レヨリ来リシ者ト為スヤ是亦前説ノ実ヲ
証スル一端ナリ(10)且夫琉球人ガ西曆六百七年ニ當リ支那ノ大
軍ニ抗シテ剛強不屈ノ勇アリシヲ以テ察スレバ軍人ノ氣象ヲ
備ヘシ者ナリ然レニ先正天皇ノ世即チ西曆七百十五年ニ當リ
日本ヨリ孔子ノ学ヲ入レシニ依テ尔来固有ノ氣象ヲ失テ文弱

日本ノ傳記ニ
琉球人及七
ル丁運カ以
武天皇ノ時

ベシ仮令斯クノ如ク論及セズシテ分派セ
言フ者アルモ兩國言語ノ關係ハ兄弟ノ如ク
リト云フニ至テハ同意ナラン(76)借又地理
ノ文人ガ云ヘル如ク琉球ハ遠ク支那ヲ隔
葉ノ扁舟以テ薩州ニ渡ル可シ其北京ヲ去
浪暴風ヲ避ク可キ所ナク堅牢ノ大船ヲ以
立覆溺ノ虞アリト(8)

事情ヲ對照比較シテ日本南方ノ人ト琉球
リトノ説ヲ吐ク者多シ其説ト田々往古琉
ヲ侵シ耶蘇紀元前七百紀中即チ神武天皇
トリト此説ヲ実事ト見做スハ蓋シ入寇
ニゴロシオト称スル所ニシテ冬春ノ際西
急潮ナリニ浴テ薩州ノ南鬼界ヶ島大島得

東岸ニ達シ尋テ九州ノ東南ニ蔓延セシモノ
鬼界ヶ島大島得能島ニ附スルニ道ハ島ノ名
縁故トランカ(88)且琉球ト九州ノ間ニハ季
西南ニ向ヒ或ハ西南ヨリ東北ニ向フ時令ノ
急流アリ(要スルニ琉球ヨリ入寇ノ者ハ此
トセシナラン)是等ノモノハ皆悉ク日本人ガ
立ク實著ナラシムル偶然ノ憑証ナリ加之若
建國ノ始祖ヲ以テ琉球ヨリ出テシ者ト為ス
レヨリ来リシ者ト為スヤ是亦前説ノ実ヲ
証夫琉球人ガ西曆六百七年ニ當リ支那ノ大
孤ノ勇アリシヲ以テ察スレバ軍人ノ氣象ヲ
先正天皇ノ世即チ西曆七百十五年當リ
入レシニ依テ尔来固有ノ氣象ヲ失テ文弱

日本ノ傳記ニ載スル如ク神武天皇ノ大和(此地方ハ後來大坂京都ヲ建
ル者トスルニ此節註釋)經畧ヲ企テシ運カ以前ニ琉球人及ヒ天皇ノ祖先ガ日本ヲ侵ス
トラス蓋シ誤ナリ(天ノ居館ト云フ義ナリ第十註ヲ見合スベシ)ト称スル所ハ
根據トセシヤ(アノミツラ)琉球人及ヒ九州人ノ祖先ノ共同本國ナリシハ必定ナリ而シテ琉球本島ハ西曆紀元ヲ距
ルテ遙カ以前ニ於テ右ノ種ニ依テ殖民セリ此人種ガ琉球ヨリ日本ニ侵入シテ神
武天皇ノ時ニ日本ニ經畧セリト云フ下概テ今人ノ信スル所ナリ(76)

ニ流レシト見ヘタリ其後二十年西曆七百五十五年聖武天皇命
シテ琉球ヲ日本ノ統轄ト受トレタ其後四百五十年ニシテ
天神統ノ王家絶滅ス(12)琉球ノ記録ヲ案スルニ世々此國ニ王タ
ル者一万七千八百二歳間ナリシト云フ而シテ日本人種ノ血統ニ
移レリ時ニ西曆千八百八十七年ナリ(12)
新朝ノ創業主ハ日本人鎮西八郎為朝公ノ第二子ニシテ母ハ琉
球^{大里}州公ノ妹ナリ(12)初メソウウラト稱ス即位ノ後舜ト稱
ス王ノ時ニ日本ノ國字イロハヲ琉球ニ入ル(12)子孫連綿トシテ
王位ヲ占メ西曆千二百四十九年ニ至テ絶ユ(12)其後西曆千三百
五十年ニ至テ王位ニ上リシ^{察度}ト稱スル者亦其子孫ナリト
云フ
此大革命ノ前ニ琉球ト支那トノ關係アリ西曆六百五十七年隋朝第
二世主煬帝琉球人ヲ促シテ入朝セシム然レドスパオコマン曰

ク此時隋ノ使者ハ琉球ニ在リシ若干ノ日本人ノミヲ以テ通辨
トセシ故應答盡ク日本人ノ隨意ニ出テ其欲スル所ヲ得ズシテ
去レリト且日本人ノ云フ所ニ從ヘハ當時琉球ハ猶ホ野蠻ナリ
シト
時ニ隋ノ使者使命ヲ遂クルヲ能ハズ因テ以為シ我レニ通辨ヲ
携ヘテ再ヒ來ラバ必ズ其志ヲ得ント是ニ於テ先ツ琉球語ヲ学
バンガ為メ土人若干名ヲ携ヘテ隋ノ帝都^シン、カン、ホニ^ル歸ル(12)
會々日本ノ推古帝使ヲ隋ニ通ズ其送ル所ノ文ニ東方日出國ノ
天子ヨリ西方日没國ノ天子ヘ云々ノ書辞アリ(16)
隋帝書辞ノ暴慢ナルヲ怒ルニ際シ遣琉球使モ亦タ還ル^リ後頻
リニ琉球ヲ征服シテ日本ノ威力ヲ殺カント謀^リ乃^ト一大臣ヲ
シテ答書ヲ齎ラシ日本帝ニ贈ラシメ別ニ一行ノ使臣ヲ遣ハシ
琉球王ニ迫リ隋朝ノ命ヲ奉セシム(17)琉球王傲然トシテ肯カハ

隋帝兵一萬ヲ發シテ來リ攻ム琉球ノ軍敗レ王モ亦タ戰没ス
隋兵進テ都城ヲ燒キ俘虜五千ヲ引テ去ル（注）ハ、大コアンク見ヨ
爾後八百年間支那帝ノ名中華ノ統斷ヘテ琉球ニ聞ヘズ故ニ支
那國ハ彼ノ一戰ヲ以テ國威ヲ琉球ニ熾カセシト見做シ置テ顧
ミザリシモノ、如シ
然レ氏是ヲ以テ支那人ハ満足セシニ非ス八百年間ハ是レ一時
ノ休戦ニシテ琉球經畧ノ事ハ尔來常ニ支那人ノ念頭ニ存スレ
氏當時只管朝鮮吞併ノ事ニ関シテ更ニ琉球ヲ顧ルノ暇アラザ
リシモノナリ抑モ朝鮮ハ曾（注）テ神功皇后ノ為メニ征服セラレ日
本ノ屬國トナリシ國ナルヲ支那ハ彼ノ琉球ノ役後數歳西曆六
百十八年ニ於テ之ヲ經畧セリ此ノ著ヲ以テスラ己ニ日本ノ怒
ヲ惹クノ虞アルニ況ヤ琉球マテモ一時ニ併セタランニハ餘リ
ニ甚ダシキ事ト思慮セシナラン故ニ當時ノ記録ニ『三韓支那ニ

歸スト虫氏無事ナリシ』トアリ（注）支那人ハ日本ノ勢力ヲ殺グノ志
アレ氏日本ヲ怒ラシテ直チニ兵ヲ構フコトヲ欲セザリシナリ
夫レ朝鮮ハ貢租ヲ日本ニ入ルト云レ日本全國ノ部分ヲ為ス國
ニ非ス加之支那ノ之ヲ畧スルヤ說アリ曰ク朝鮮無礼ノ所為ア
リ故ニ其罪ヲ問フノ結局干戈ヲ交ユルニ至レリト此說誠ニ一
理アリ故ニ日本國ハ全ク甘心セルニ非スト虫氏無事ニ濟マセ
シナリ然レ氏琉球ノ如キハ支那ト怨ヲ結フノ理由ナシ故ニ一
朝ニ朝鮮ヲ畧シ又無名ノ師ヲ琉球ニ遣ラハ日本豈能ク傍觀セ
ンヤ必ス此再度ノ侵撃ヲ以テ本國ノ獨立ヲ脅迫セラル、モノ
トシカヲ以テカニ抗スルノ一舉ニ出テン故ニ支那ノ琉球ヲ侵
スハ日本ト大戰端ヲ開クナリ然ルニ支那ハ未タ十分ノ戰備ナ
キガ故日本ト事ヲ起スヲ憚リシナリ
其後西曆千二百八十一年ニ至リ以為ク我力能ク日本ヲ征スル

ニ足ルト乃チ決然兵ヲ擧テ琉球ヲ經畧セント欲ス是時ニ當リ
支那帝位ニ在リシ者ヲ^{世祖}ト稱ス^{世祖}ト稱ス歐洲ニ
テ「クブライ、カント」稱スル者ナリ中華ノ強盛ナリシハ此時ヲ極
トス其版圖ハ北極ヨリ起テ南ノ方麻刺加ノ海峽ニ亘リ西ノ方
印度斯坦、阿刺非及ヒ亞西亜ノ西界ニ在ル諸國ヲ除キ「ドニエペ
ル」^{歐羅巴露西}ニ至ルマデノ諸國ハ盡ク服從シテ貢租ヲ納ル是
ニ於テ支那帝以為ク我版圖ヲ廣ムルニハ地上人類ノ住スル所
只年来垂涎スル琉球ヲ収メ尋テ日本ヲ畧スルニ在ルノミト乃
チ一隊ノ戦艦ヲ備ヘ擧兵以來百戦百勝ノ^{大軍}猛兵ヲ載セテ琉球海
ニ向ハシメ猶ホ戒心ニ戒心ヲ加ヘ日本ト宿怨アル朝鮮王ニ命
シ大軍ヲ將テ從ハシメ^其戦艦^近ト
近^{如何}ト云フ^{ナリ}カト危フマレタリ然ルニ日本ハ幸ニシテ
カ、ル事アルヲ知ラザリキ「シニ、^{ボ、コ}アン」曰ク支那ノ戦艦ハ

事故アリ臺灣ノ西岸ヲ過クルコト能ハズシテ還レリト紀事甚ダ
不分明ナリ又一説ニ從ヘバ毎歲一定ノ時令ニ當リ「コリツピー
」島ヨリ起テ日本ノ東北ニ向フ所ノ暴風ニ逢テ散乱シ水軍ノ
將卒或ハ溺没シ或ハ「ベスカドリ」ノ海岸無人ノ境ニ漂着シテ
歸ルコト能ハズ若干ノ蒙古隊ノ外支那ニ歸リシ者ハ極メテ僅少
ナリシト云フ是レ實説ナリトゾ
日本ガ支那入寇ノ害ヲ免レシ所以ハ斯ノ如シ日本設シ此入寇
ニ逢ハバ倭令敗亡ノ耻辱ヲ取ラズシテ能ク勝ヲ制シ得ルモ激
戦ノ餘ハ大國ト云フ頓ニ其創痍ヲ愈シ難キ所ノ患害ニ罹リシ
ナラン
茲ニ又支那ハ水軍ノ難風ニ逢テ歸ルヲ見テ再々出師ノ準備ヲ
為ス令回ハ特別ニ日本ニ向ケテ發スルモノニシテ^{人馬}準備ノ^{齊整}
セルハ初度ニ倍ス戦艦三千五百艘十萬ノ支那人七千ノ朝鮮人

之ニ乗ル帆影ノ海面ヲ覆フハ恰モ白鷺ノ琵琶湖上ニ群飛スル
カ如クナリシト云フ此役ヤ復々颶風ニ逢テ沈没スルモノ幾千
人殘テ船中ニ在ル者或ハ避ケテ高島ニ上リシ者ハ日人ノ為メ
ニ塵セラル此時日本ハ支那人三人ヲ放テ歸シテ敗報ヲ支那帝
ニ傳ヘシム実ニ西曆千二百八十一年八月ナリ
然ルニ世祖ハ猶ホ挫阻セズ再ヒ蒙古兵ヲ將テ親ラ日本ニ向ハ
ント欲スト雖臣國ニ内乱アリ沿海地方ニ倭寇アリ「ジャリ」ヲ伐
テ大敗シ(西曆千二百九十二年)尋テ其身モ死ハス(西曆千二百九
十四年)是ヲ以テ復讎ノ志ヲ果サズ設シ此數者微リセバ日本ハ
再度入寇ノ害ヲ被リシナラン
世祖死スルノ後支那ハ内外連年 戦役ニ疲弊セシヲ以テ暫ラ
ク琉球日本ノ議興ラザルヲ以テ幸トセリ其後百年西曆千三百
七十二年ニ至リ再ヒ宿志ヲ發ス

明ノ太祖即位ノ時ニ当リ琉球國ニ王位ヲ爭フノ乱アリ遂ニ三
分割據ノ國ト為ル中山山北山南ト云フ各ニ別ニ王アリ太祖以
為ク是レ支那ノ政略ヲ琉球ニ施シノ好機會ナリト明主固ヨリ
他ニ志望アルニ非ズ只琉球諸王が入朝レテ封爵ヲ請フニ在リ
故ニ其琉球國ニ干涉スルノ目的ハ之ヲ支那ノ属國ト為スニ非
ズ只三國王ノ篡奪セル封爵ヲ公然ト定ムルガ為メナリキ
明ノ太祖ガ謀リタル右ノ一着ハ實ニ巧智ノ方略ナリ而レテ此
事ノ障礙ヲ為スモノハ獨リ日本ノ將軍足利義滿アルニ然リ
而メ義滿モ亦タ好機會ヲ待テ自家身上ノ為メ支那ノ封爵ヲ受
ケント欲スル時ナレバ毫モ太祖ノ行事ヲ妨クルモノニ非ス是
ヲ以テ太祖ノ政略ヲ施スニ付キ別シテ便宜好カリレナリ抑モ
足利義滿ノ欲スル所ハ他ニ非ス譬ハ彼ノ羅馬教皇ガ歐洲ノ
諸國主ニ對シ中古ノ半バ過タル頃マデ占領シタル位地ノ如キ

モノヲ支那帝ニ占メサセテ自家ニ對セシメ日本帝ノ外ニ己レ
ノ上首タル者ヲ立テ特ニ日本帝ノ政權ニ服従シ來リシ日本王
按スルニ日本ニハ帝ノ外ニ王ト稱ス可ク封爵ヲ支那帝ヨリモ
受ケテ當時責任ノ將軍職ヲ永ク其家ノ世襲ト為サント欲スル
ニ在リ果シテ其後廿九年宣宗ノ時ニ至リ便宜ヲ得テ遂ニ此事
ヲ施行セリ當時支那帝ガ日本國事ニ関シ日本帝家世襲ノ權限
ヲ侵スヲ拒ム者ハ日本全國一般ナリキ然ルニ支那皇帝ハ人間
各國主一冊封ノ儀式ヲ以テ政權ヲ分賦スル所ノ大權ヲ天ヨリ
授與セラレシ者ナリ(恰モ教法ノ主宰ガ天帝ニ於ケルガ如シト
支那ノ經旨ニ云ヘルヲ以テ日本若千ノ有權者此大權ヲ遵奉セ
ント欲セルナリ
借テ太祖ハ是等ノ機會ニ乘レテ其政略ヲ施サント欲スト臣に
其方法ハ忽必烈ガ琉球ニ對シ初メヨリ其國王ヲ臣トシ政權ヲ

掌握セント欲スルガ如キニ非ス如何トナレバ如此スルハ忽
チ日本人ノ曉ル所トナリ竟ニ大望ヲ達スルヲ能ハサルニ至レ
バナリ又余輩ハ思考スルニ
シ社々諸國ノ...
自ラ世界ノ專斷ノ盟主トナリシ(例ハハ仙蘭西ト西班牙ニテ千
六百五十九年ニ定メタル二國ノ約条ニ係ルガ如キハ其著名ナ
ルモノニシテ載セラロラシガ史論ニ詳カナリ)ガ如キヲモ
欲セガルナリ
是等ノ...
ト欲スル所ハ特ニ教皇トシ七世ガ巴里府ノ聖世堂ニテ拿破崙
ノ冊封ヲ行ヒシト同一ナリ其意決シ
ノ政權ヲ殺カント欲スルニ非ス譬ハ...
查理曼ヲ冊封セ...
天帝ヨリ授与セラレシ君主權ヲ...
他ニ

モノヲ支那帝ニ占メサセテ自家ニ對セシメ日本帝ノ外ニ己レ
ノ上首タル者ヲ立テ特ニ日本帝ノ政權ニ服従シ來リシ日本王
按スルニ日本ニハ帝ノ外ニ王ト稱ス可ク封爵ヲ支那帝ヨリモ
受ケテ當時責任ノ將軍職ヲ永ク其家ノ世襲ト為サント欲スル
ニ在リ果シテ其後廿九年宣宗ノ時ニ至リ便宜ヲ得テ遂ニ此事
ヲ施行セリ當時支那帝が日本國事ニ関シ日本帝家世襲ノ權限
ヲ侵スヲ拒ム者ハ日本全國一般ナリキ然ルニ支那皇帝ハ人間
各國主一冊封ノ儀式ヲ以テ政權ヲ分賦スル所ノ大權ヲ天ヨリ
授與セラレシ者ナリ(恰モ教法ノ主宰が天帝ニ托ケルが如シト)
支那ノ經曆ニ云ヘルヲ以テ日本若千ノ有權者此大權ヲ遵奉セ
ント欲セルナリ
借テ太祖ハ是等ノ機會ニ乘レテ其政略ヲ施サント欲スト至レ
其方法ハ忽必烈ガ琉球ニ對シ初メヨリ其國王ヲ臣トシ政權ヲ

掌握セント欲スルが如キニ非ス如何トナレバ如此スルハ忽
チ日本人ノ曉ル所トナリ竟ニ大望ヲ達スルヲ能ハサルニ至レ
バナリ又余輩ノ思考ハ西トシ又羅馬教皇ガ歐洲ニテ勢ニ乘
シ社々諸國ノ重要ナル盟約ヲモ随意ニ破毀シ其政權ヲ恣ニシ
自ラ世界ノ專斷ノ盟主トナリシ例ハハ仙蘭西ト西班牙ニテ千
六百五十九年ニ定メタル二國ノ約条ニ係ルが如キハ其著名ナ
ルモノニシテ載セテローラシ氏ガ史論ニ詳カナリ(が如キヲモ
欲セザルナリ)
是等ノ經歴ヲ忽必烈祖ノ誤カカ所志ハ非ス其琉球國ニ博セン
ト欲スル所ハ特ニ教皇ヨリ七世カ巴里府ノ聖世堂ニテ拿破崙
ノ冊封ヲ行ヒシト同一ナリ其意決シテ教皇ノ便ヲ計テ拿破崙
ノ政權ヲ殺カント欲スルニ非ス譬ハハ往時教皇レオニ三世ガ
查理曼ヲ冊封セシ(如ク)天帝ヨリ授与セラレシ君主權ヲ其(他ニ

南堂朝鮮

聖皇の平素

自家ニ對セシメ日本帝ノ外ニ己レ
日本帝ノ政權ニ服従シ来リシ日本王
王ト稱ス可ク封爵ヲ支那帝ヨリモ
永ク其家ノ世襲ト為サント欲スル
直宗ノ時ニ至リ便宜ヲ得テ遂ニ此事
日本國事ニ関シ日本帝家世襲ノ權限
一般ナリキ然ルニ支那皇帝ハ人間
政權ヲ分賦スル所ノ大權ヲ天ヨリ
法ノ主宰ガ天帝ニ於ケルガ如シト
日本若干ノ有權者此大權ヲ遵奉セ
テ其政畧ヲ施サント欲スト亟ニ
初メヨリ其國王ヲ臣トシ政權ヲ

非ス如何トナレバ如此スルハ忽
見ニ大望ヲ達スルヲ能ハサルニ至レ
羅馬教皇ガ政權ニテ勢ニ乘
約ヲモ随意ニ破毀シ其政權ヲ恣ニシ
ナリレ(例ハ仏蘭西ト西班牙ニテ千
二回ノ約条ニ係ルガ如キハ其著名ナ
ラシ氏ガ史論ニ詳カナリ)ガ如キヲモ

大カ所志ニ非ス其琉球國ニ博セン
七世ガ巴里府ノ聖母堂ニテ拿破崙
其意決シテ教皇ヲ便テ計テ拿破崙
非ス譬ハ往時教皇レオニ三世ガ
授与セラレシ君主權ヲ其ト他ニ

南堂、朝鮮、暹羅、柬埔寨等ノ亞細亞諸國。施ビシ如ク深ク干渉スルヲモ欲セス。

深皇ハ平素甚クシク仏國王ノ害ヲ去スト欲ス。

抗爭ス可キ者ナカラシメントノ意ナリ
備支那帝ハ自ラ称シラ世界大國ノ大至尊ノ君主ト云フ(千八百
六十七年十二月廿一日ニ英國女王ヘ送リシ同治帝ノ昏翰ヲ見
ヨ)又其任ハ世界ヲ平ケ治ムルニ在リト(千八百六十三年同治帝
ヨリ米合衆國ノ大頭領ヘ送リシ公文ヲ見ヨ)又現世ニ於テ天帝
ヲ輔佐シ慈仁平和ヲ行フ者ナリト(大盟約ト云フ昏ノ第四卷ヲ
見ヨ)支那帝ノ自負スルヤ此ノ如ク尊大ナリト雖氏日本ニ對シ
兵力ヲ以テ此位地ヲ求ムルヲ無ク又其將來ニ期スル所ノ欲望
何処ニ在ルヲ見ハナシ。日本
蓋シ支那ノ朝鮮暹羅南掌柬埔寨東加チ、中、西亞諸國
對スル布活ハ皆斯ニ如ク、
然リ而シテ日本ハ上ニ世ヲ以テ其獨進ヲ全シ、
ルノ抵抗心アリ、以テ其獨進ヲ全シ、
高國現セラレ、マ許カ
安南東洋ニ對シテ其利益ヲ保シ、

為ト一轍ナリ西曆六百年頃ニ當リ日本國ハ己ニ其獨立國タ
ルヲ示ス為メ推古帝ガ隋ノ煬帝ヘ送リシ昏辭ノ倨傲ナリシ
ハ前ニ述ハタリ其後七百年ヲ歴シテ日本帝ノ志ハ曾テ変セス
元ノ時日本ハ朝貢ヲ促スノ使者來ルニ當リ北条時宗ニ命シ之
ヲ追ハシムルヲ六回ニシテ其再ヒ來リ追ルニ及テハ使者ヲ斬
テ報セヌ時ニ千二百七十九年ナリキ
然レ故ニ日本帝ハ支那帝トノ交通ニ於テ支那帝カ尊大ノ稱ヲ為
スヲバ改測諸國ノ如ク毫モ心頭ニ關セサルナリ是ナ。米ノ合
衆國ニテ今ニ至ルマテ若干ノ平民其門地ヲ示ス為メ馬車具ニ
徵^考ヲ付スルガ如シ又英國ガ近頃マテ絶ヘス仙回王ト稱セル
ガ如シ實ニ一突ニ附ス可キノミ故ニ支那帝ハ日本ノ王爵ヲ私
スト雖氏曾テ其恠シム所トナラガレ可シ
明ノ太祖善^ハ此^十其^分然^安事^全情^ハ察^考知^レ之^ハ由^テ以^テ其利益ヲ圖リ

抗爭ス可キ者ナカラシメントノ意ナリ
備支那帝ハ自ラ稱シラ世界大國ノ大至尊ノ君主ト云フ(千八百
六十七年十二月世一日ニ英國女王ヘ送リシ同治帝ノ昏翰ヲ見
ヨ)又其任ハ世界ヲ平ケ治ムルニ在リト(千八百六十三年同治帝
ヨリ米合衆國ノ大頭領ヘ送リシ公文ヲ見ヨ)又現世ニ於テ天帝
ヲ輔佐シ慈仁平和ヲ行フ者ナリト(大盟約ト云フ昏ノ第四卷ヲ
見ヨ)支那帝ノ自負スルヤ此ノ如ク尊大ナリト雖氏日本ニ對シ
兵力ヲ以テ此位地ヲ求ムルヲ無ク又其將來ニ期スル所ノ欲望
何處ニ在ルヲ見ハサレド日本人モ疑懼ノ心ヲ生ズ日本レ
蓋シ支那ノ朝鮮暹羅南掌柬埔寨馬刺加ボト如ク東西亞諸國
對スル布法ハ皆斯ク如クナリト云フ。安南東京緬甸ノ所
然リ而シ日本ハ上世ヨリ支那ノ為メニ屬國視セラル。ヲ許カ
ルノ抵抗心アリ。以テ其獨主ノ全ク。安南東京緬甸ノ所

支那帝ハ萬國
何ク支那帝ニ
足ラズトシ

為ト一轍ナリ西曆六百年頃ニ當リ日本國ハ己ニ其獨立國タ
ルヲ示ス為メ推古帝ガ隋ノ煬帝ヘ送リシ昏辭ノ倨傲ナリシ
ハ前ニ述ハタリ其後七百年ヲ歷レバ日本帝ノ志ハ曾テ変セス
元ノ時日本ハ朝貢ヲ促スノ使者來ルニ當リ北条時宗ニ命シ之
ヲ追ハシムルヲ六回ニシテ其再ヒ來リ追ルニ及テハ使者ヲ斬
テ報セシムルニ千二百七十九年ナリキ
然レ故ニ日本帝ハ支那帝トノ交通ニ於テ支那帝カ尊大ノ稱ヲ為
スヲ心歐洲諸國ノ如ク毫モ心頭ニ関セサルナリ是ボ米合
衆國ニテ今ニ至ルマテ若干ノ平民其門地ヲ示ス為メ馬車具ニ
徽号ヲ付スルガ如シ又英國ガ近頃マテ絶ヘス仙回王ト稱セル
ガ如シ實ニ一突ニ附ス可キノミ故ニ支那帝ハ日本ノ王爵ヲ私
スト雖氏曾テ其恠シム所トナラガレ可シ
明ノ太祖善リ其然レ事情ヲ察知レシト由テ以テ其利益ヲ因リ

明ノ太祖善リ其然レ事情ヲ察知レシト由テ以テ其利益ヲ因リ

ラシメントノ意ナリ

シラ世界大國ノ大至尊ノ君主ト云フ(千八百
一日ニ英國女王ヘ送リシ同治帝ノ昏翰ヲ見
平々治ムルニ在リト(千八百六十三年同治帝
頭領ヘ送リシ公文ヲ見ヨ)又現世ニ於テ天帝
ヲ行フ者ナリト(大盟約ト云フ昏ノ第四卷ヲ
スルヤ此ノ如ク尊大ナリト雖モ日本ニ對シ
ヲ求ムルヲ無ク又其將來ニ期スル所ノ欲望
ナシト日本人心ヲ疑懼シ心ヲ生ズ日本
羅南掌東埔寨馬刺加ボト如ク重西亞諸國
世ヨリ支那ノ為メニ屬國視セラレヌヲ許カ
以テ其獨主ヲ全クシ安南東京緬甸ノ所

間々支那ノ統制ニ干渉スルヲ以テ現世ニ齊シキ虛名ノ誇稱ノミ
足ラズトシテ之ヲ妨ガルヲナシト如何トナレハ。

支那帝が萬國統一ノ君主トシテ欲スル志ヲ達スルヲ獨主ヲ保ツ故ナリ。

百年ノ頃ニ當リ日本國ハ己ニ其獨立國タ
ガ隋ノ煬帝ヘ送リシ昏辭ノ倨傲ナリシ
七百年ヲ歴シ日本帝ノ志ハ曾テ変セス
促スノ使者來ルニ當リ北条時宗ニ命シ之
面シテ其再ヒ來リ迫ルニ及テハ使者ヲ斬
自七十九年ナリキ
那帝トノ交通ニ於テ支那帝カ尊大ノ稱ヲ為
ク是モ心頭ニ刻セサルナリ是ボハ米ノ合
ミテ若干ノ平民其門地ヲ示ス為メ馬車具ニ
又英國ガ近頃ニテ絶ヘス仙回王ト稱セル
内ス可キノミ故ニ支那帝ハ日本ノ王爵ヲ私
レム所トナラガレ可シ
事情ヲ察知レシト由テ以テ其利益ヲ圖リ

六

レナリ蓋シ其心ニ曰ク若シ他國ニテ我冊封權ヲ入ルヲ許サバ
政權ハ之ニ次テ入ルヲ得可シ故ニ先ツ其一分ヲ取り得タルモ
ノナリト又其琉球日本ニ於ケルモ之ニ異ナラズ琉球ハ三王
ヨリ初メ日本ハ一王足利氏ヨリ初メテ冊封權ヲ樹ツレバ之ニ次
テ政權ノ立タンヲ期シテ待ツ可シト是レ支那建國以來殆ト三
千五百七十七年間未曾有ノ事業ナリ然レ氏其未ダ曾テ能クセ
ガリシヲ以テ期ス可ラズト云フ理由ナキナリ
果シテ当初ハ百事皆ナ國ニ中リテ太祖ノ智睿ヲ証セリ琉球王
ハ太祖ノ先見ニ違ハス爭テ其冊封ヲ請ヒ又其命ニ應レテ使者
ヲ北京ニ送り名馬香水硫黃銅錫ヲ貢セリ依テ太祖ハ慇懃ニ使
者ヲ待遇シ珍奇ノ物品ヲ授与シ添ユルニ琉球王ノ印綬ト支那
及ハ滿洲語ヲ以テ記シタル印章ヲ以テシ尋テ支那ノ三十六家
ヲ中山ノ都府首里ニ送ル中山王ニ供スルニ土地ト家屋ヲ以

テシ支那國語ヲ士民ニ傳ヘ孔子ノ教ヲ授ケシメ又ア按シ琉球
ノ貴族若干名ヲ南京ニ留學セシム支那帝官費ヲ以テ之ヲ懇切
ニ教育セリ千時西曆千三百九十五年ナリ
琉球ハ此時支那ト交通セシ以來為メニ弊害ヲ生セシト有ラス
此交通ヨリ生セル第一ノ結果ハ商業ノ進歩ニシテ大ニ國ヲ富
マシ前ニ内乱ノ基トナリシ缺乏ヲ匡セリ輓テ西曆千四百二十
四年ニ至リ全國一和シテ中山王ニ歸セリシニバオコアシ潤色シ
テ記シテ曰ク孔子ノ道琉球ニ入テヨリ以來國王ノ知識ヲ増シ
隣國ニ不和ヲ生スルハ選ハレテ之ガ中裁人ト為レリト然レ
此一事ハ証拠ナケレバ信用シ難シ但シ琉球人ガ今ニ至ルマ
テ當時ノ太平ヲ追想シ又日本ノ政ヲ受ケ支那ノ教ヲ受ケ兩國
ニ服従スルヲ以テ其國ヲ全フスルノ策ト為スニ至テハ虚説ニ
非ルナリ琉球人ハ日本ニ向テ貴國ハ我父ナリト云々支那ニ向

テ貴國ハ我母ナリト云ヘリ
日本ハ尤モ實地ヲ主トスル國ナリ故ニ琉球ガ朝貢ヲ怠ラズ屬
國タルノ分ヲ尽ス間ハ之ヲ視ル猶ホ慈父ガ驕兒ニ於ケル如ク
恣ニ支那ト交通スト雖モ更ニ猜疑ノ心ヲ起サズシテ看過セリ
而ルニ支那ガ母權ヲ超ヘ父權ヲ奪ハントスルヲ瞭然タルヲ見
テ初メテ其權理ヲ失フヲ曉レリ然レモ時己ニ遲シ太祖ノ政
畧方サニ其果ヲ結ヘリ初メハ琉球人日本ノ譴責ヲ聽シト雖モ
後ニハ拒テ納レス終ニハ支那ノ教法ニ心醉シテ我カヲモ計ラ
ズ將軍秀忠ガ島津家久誤ヲ使テ遣ハシ諭シテ帰順セ
レムルニ當リ之ヲ罵ルニ至レリ
是ニ於テ將軍曰ク琉球ハ帝國南方ノ鎖鑰ナリ我君ヲレテ之ヲ
失ハレム可ラズ事己ニ茲ニ至ル斷然兵力ヲ以テ其罪ヲ問フ可
シト乃チ令テ島津氏ニ傳ハ兵ヲ遣テ之ヲ征セシム島津氏兵ヲ

攀ケテ琉球ニ入り其都城ヲ陷レ王尚寧ヲ捕エテ江戸ニ送り尋
テ之ヲ鹿見島ニ囚フ尚寧支那ノ救援ヲ期シテ日本ノ命ニ服セ
サルヲ三年間ナリキ而ルニ支那ハ之ガ為メニ勅カズ抑モ支那
ハ此事ヲ知ラサリシカ否ナ當時支那ハ絶エス日本ト交通セリ
千六百八年慶長十三年支那ハ使者日本ヲ來リ一歲間鎖鑰日本ヲ
留レリ儲又千三百九十一年ハ盟約ニテ支那國若シ琉球
ノ國事ニ関シテ幾分ノ權理ヲ得シモノナラバ此時兵力ヲ以テ
之ヲ爭ハカル可ラサルナリ然ルニレカセガリレハ支那ノ琉球
ニ干渉ス可キ權理ナカリシヲ証ス可シト余輩ハ信スルナリ加
之支那ハ此頃ヨリ海外ノ經畧ヲ絶念シ初メタリ
當時ノ形勢ヲ察スルニ支那ハ勢尽キテ又々如何トモ為ス可ラ
ズ其望ヲ海外ノ經畧ニ屬ス可ラサルハ昭々トシテ掩フ可ラズ
明ノ歷代諸帝ハ人力ノ及フ所至ラサル所ナク百方經營シテ大

祖が権謀ノ結果ヲ保タルトセシト至三百年前至十四世紀忽ッ烈ガ用ヒシ兵力ノ結果ニ勝ルヲ得カリキ西暦千四百、年足利義満ノ死後、其子義持ヲ初メ世々日本王ノ封爵ヲ受ケシ者更ニ無ク輒ニ千九百九十九年ニ至リ曩ニ太祖ガ施セシ政畧ヲ琉球ニ永続セシマンガ為十四百年足利義満ヲ封七故例ヲ攀ケテ豊臣氏ハ日本王ノ位ヲ授ケタレハ豊臣氏ハ封冊ヲ使者ノ面ニ抛テ之ヲ斥ケ汝ノ北京ニ封爵ヲ主トル皇帝アリト至氏日本ニモ亦タ齊シク皇帝ノ在ル有ルヲ知ラズヤ且我己ニ日本皇帝ノ命ヲ受ケテ將軍職ニ在リ支那ノ封爵ヲ何ニクセントノ意ヲ示セリ

加之支那ノ不幸益々増加シテ彼ノ千六百九年ノ事件起レリ當時琉球王ハ是ボノ事情ヲモ知ラス猶ホ支那ヲ母トシ主君トシテ心ヲ寄スト至氏支那ハ一言ノ之ヲ庇護ス可キ権ヲ有セサル

ニ依テ尚寧終ニ巨額ノ贖罪金ヲ収メ自今而後固ク日本帝ノ制令ヲ遵奉セント誓テ本國ニ歸ルヲ得タリ

是ヨリ以後ハ琉球王前日ニ倍シテ屢々使者ヲ將軍ノ居城ニ送り其來ルヤ必ス幣帛ヲ厚クシテ日本帝ハ獻セリ(23)

諸又琉球人ハ日本ヲ侮リシ責罰極メテ重クシテ其魂魄ニ徹セラルヲ表スル為メ百事慎重勉メテ其野心ナキヲ示スト至氏未タ全ク交々支那ニ絶ツヲ要セズトシ國事ニ関セズ法度ニ觸レサル事ナリト思考スル所ノ交通ヲ断工ヲ行ヘリ但シ是迄毎歲北京朝廷ニ送リシ貢物ヲ隔歲ニ改メタリ日本ニテ嚴シク論スルハ琉球ノ支那ニ交通スルヲ全ク止メシムルヲ得可シ如何トナレバ西暦千六百十三年ニ定メタル誓書ニ琉球王ハ以後薩州公ノ明許ヲ受ケサレバ一切支那ト交通セズト盟ヒシ故ナリ

然レハ日本ノ慣習ニテハ凡ハ犯スル所ハ法ヨリモ是ヨリ生ズ

ル所ノ利害ノ多少ヲ取テ事ノ大小業ノ輕重ヲ定メテ日常トス
ル事ナリト故環球ノ支那ニ通ルモノヲ黙許シテ不都合ナカリレ
ル事ナリト行ハルモノハ、
是レ其後封冊ノ式ハ絶エス行ハルト雖モ諸人ハ之ヲ空名
ニシテ回事ニ関スル性質ノモノト見做カズ又テ琉球ヨリ北京
朝廷ト福州府ヘ送リテ貢物ハ南京留學生ノ謝金其他日本商人
ガ福州ニテ行フ貿易ノ免許料ト見做セリ就中共福州府一納ル
、貢物ノ如キ一該地ニ通高スル荷蘭葡萄牙ノ如キ外國人ヨリ
納レシ貢物ニ思
所ノ噸税関税
由ニ觀テ到來
ノ依然トレテ減セズ及ヒ西曆七百三十五年ニ當リ聖武帝ガ
シテ琉球ヲ日本ノ属国ト為セル明文旧ノ如ク存スル間ハ日本

ト共ニ琉球ノ回事ニ関スル権理ノ輕重ヲ争フ可ラカルヤ固ヨ
リ論ヲ俟タズトセシナリ
儲テ前ニ述ヘシ場合ニ於テ尚寧王ガ帰国セシ後殆ト二百五十
年西曆千八百六十三年ニ當テ琉球ノ位地ハ斯ノ如ク而シテ是
レハ別人ノ説ニ非ス此般ノ事件ヲ尤モ善ク辨別スル英國人
ノ所論ナリ今ヲ距ルテ十六年前英國人ガ兵艦ヲ鹿兒島ニ向ケ
レテ該港ニ碇泊セシ琉球船二艘ハ己ムヲ得ズレテ毀テシニ非
ズ殊更ニ之ヲ燒キレナリ蓋シ此小国ノ船舶ヲ毀テハ薩州遠隔
ノ属地マテモ禍害ヲ被ラシムルニ足ル可レトノ意ニテ特別ニ
ハ國旗ヲ掲ケ居タリレヲ以テ其後ニ至リ彼レハ支那ノ属国ナ
リシトノ論ヲ起セリ然レモ是ハ確論ニ非ス余輩ハ千八百七十
四年北京ニ於テ英國公使ガトマスワード氏ガ証人ト為テ

ル所ノ利害ノ多少ヲ以テ事ノ大小業ノ輕重ヲ定ムヤ日常トス
ル事ヲリテ故琉球ヲ支那ニ通スルモノ黙許シテ不都合ナカリシ
ナリ、
是レ其後封冊ノ式ハ絶エス行ハルト雖も諸人ハ之ヲ空名
ニシテ國事ニ関スル性質ノモノト見做カズ又タ琉球ヨリ北京
朝廷ト福州府ヘ送リシ貢物ハ南京留學生ノ謝金其他日本商人
ガ福州ニテ行フ貿易ノ免許料ト見做セリ就中共福州府ヘ納ル
、貢物ノ如キ一談地ニ通高スル荷蘭葡萄牙ノ如キ外国人ヨリ
納レシ貢物ニ異ナラス是レ方今支那ト通商スル諸國人カ拂フ
所ノ噸稅関稅ト同一ナリト云フ可シ、
由ニ觀ニ到來支那ハ琉球ト交通スト雖も島津氏カ加ヘシ盛力
ノ依然トシテ減セス及ヒ西曆七百三十五年ニ當リ聖武帝ガ勅
シテ琉球ヲ日本ノ屬國ト為セル明文旧ノ如ク存スル間ハ日本

○日本ノ慣習
利害ノ多
琉球ガ事

ト共ニ琉球ノ國事ニ関スル權理ノ輕重ヲ爭フ可ラカルヤ固ヨ
リ論ヲ俟タズトセシナリ
儲テ前ニ述ヘシ場合ニ於テ尚寧王ガ歸國セシ後殆ト二百五十
年西曆千八百六十三年ニ當テ琉球ノ位地ハ斯ノ如ク而シテ是
レハ別人ノ說ニ非ス此般ノ事件ヲ尤モ善ク辨別スル英國人
ノ所論ナリ今ヲ距ルヲ十六年前英國人カ兵艦ヲ鹿兒島ニ向ケ
シテ談港ニ碇泊セシ琉球船二艘ハ己ムヲ得ズシテ毀テシニ非
ス殊更ニ之ヲ燒キシナリ蓋シ此小國ノ船舶ヲ毀テハ薩州遠隔
ノ屬地マテモ禍害ヲ被ラシムルニ足ル可シトノ意ニテ特別ニ
ハ國旗ヲ掲ケ居タリシヲ以テ其後ニ至リ彼レハ支那ノ屬國ナ
リシトノ論ヲ起セリ然レモ是ハ確論ニ非ス余輩ハ千八百七十
四年北京ニ於テ英國公使カトトマスワード氏ガ証人ト為テ

大小罪ノ輕重ハ定ムヤ日常トス
通ルヤヤ堅許レテ不都合ナカリレ
トス行ハルト雖氏諸人ニ之ヲ空名
モノト見做カズ又タ琉球ヨリ北京
ハ南京留學生ノ謝金其他日本商人
計料ト見做セリ就中共福州府一納ル
高スル荷蘭葡萄牙ノ如キ外国人ヨリ
方今支那ト通商スル諸國人カ拂フ
云フ可シ
交通スト雖^到島津氏カ加ヘシ盛力
曆七百三十五年ニ当リ聖武帝ガ勅
セル明文旧ノ如ク存スル間ハ日本

権理ノ輕重ヲ爭フ可ラサルヤ固ヨ
尚寧王ガ帰国セシ後殆ト二百五十
テ琉球ノ位地^高斯ノ如^ク而シテ是
事件ヲバ尤モ善ク辨別スル英國人
年前英國人カ兵艦ヲ鹿兒島ニ向ケ
二艘ハ己ムヲ得ズレテ毀テシニ非
此小國ノ船舶ヲ毀テハ薩州遠隔
ムルニ足ル可シトノ意ニテ特別ニ
タルナリ然ルニ此時琉球船ハ支那
テ其後ニ至リ彼レハ支那ノ屬國ナ
是ハ確論ニ非ス余輩ハ千八百七十
トトマスワード氏ガ証人ト為テ

○日本ノ慣習ニテ斯ノ如キ場合ニ於テハ犯セル所ノ法ヨリモ是ヨリ生スル所ノ
利害ノ多少ヲ以テ事ノ大小罪ノ輕重ヲ定ムルヲ常トスル風ナリシ故
琉球ガ支那ニ通スルヲ不都合ナシト默許セシナリ加之。

定メタル条約ニ利ヲ得タル方ノ所屬地ナリト認ムル者ナリ
時ニ日本ノ使節ト爲テ該条約書ニ調印セル大久保氏ハ初メ談
判中屢々支那人ノ虚諾ニ欺カレシ故カートーマスワード氏ガ
支那政府ノ托ヲ受テ大久保氏ニ謁シ某々ノ件ヲバ日本ノ所望
ニ任セントノ約束ヲ述ヘシト全氏ハ信用スルニ足ル可キ者一
人北京政府兼諾ノ保証人ト爲ルニ非カレバ断然聽納レ難キ旨
ヲ答ヘタリ是ニ於テカートーマスワード氏ハ平和ヲ保タン爲
メ此危険ナル保証人ト爲ルヲ兼引セリ
此千八百七十四年ノ条約ハ其以前臺灣島内支那ノ領地ニ連続
スル一部落ノ蛮民ガ琉球人六十六名ヲ残害セシニ付キ日本ヨ
リ属国民被害ノ補償ヲ要求セルニ依テ起リシ戦争ノ末出来セ
シ事件ニシテ是カ爲メニ起リシ争論ナレバ支那若シ琉球ハ日
本ニ属スルモノニ非スト辨明セラレタランニ一談判ハ勝タレ

レト明白ナリ然ルニ該一点ヲ掲ケ出カバルハ蓋シ日本ノ琉球
ヲ有スル権理ハ確乎トシテ争フ可ラスト思ヒシナラシカ談談
判ノ決セサルヲ六ヶ月餘ニシテ其間曾テ一言モ琉球ニ説キ及
ハス恰モ被害人ノ生回ニ非ガルガ如クナリキ故ニ琉球人ノ被
害一件ニ付キ日本ト支那ノ間ニ起リシ葛藤ヲ和解セル条約ヲ
定メ調印スル時マテ全ク琉球ノ事ヲ除ケテ談判セリト云フ可
シ而ノ其時初メテ琉球ノ事ニ説キ及ヒ日本國ガ臺灣ヲ伐テ殺
害ノ報讎ヲ爲カレシ琉球ノ被害人ハ日本ノ臣民ナリトノ條款
ヲ明白ニ立ラタリ⁽²⁵⁾
事已ニ斯ノ如シ然ルニ猶ホ日本ガ琉球ヲ所屬トスルニ付キ別
ニ引證ヲ要スルヤ否ナ決シテ要セサルナリ
然レ氏人或ハ余輩ヲ詰ラシ琉球ヲ以テ日本ノ屬地ニ非スト云
フハ別人ナラス琉球人ナルヲ如何ト是レ他ナシ大国ノ間ニ接

レ毎時争論ノ種子ト為ル故西國ニ岐属シ分取ス可ラカル土地
ト為テ禍ヲ避ルノ策ノミ琉球人ハ若シ西隣國ノ内甲國乙國ヨ
リモ強盛ニナリ國益ノ為メ甲ニ属スル方ヲ便トスル場合ニ至
レバ己ムメ得サレモ若シ吾ラサレハ譬ハ一政洲ニ土地ヲ全フ
シ平和ヲ保ツ為メ主張スル中立ノ方法ト同一ナル利益ヲ占メ
ント欲スル者ナリ此方法遂ニ琉球ノ通言トナリ時機ヲ量リ或
ハ甲ノ藩属ト云ヒ或ハ乙ノ臣民ト稱シ其所為ニ矛盾ヲ生シ不
分明ニ至レルナリ例ハ琉球人ケ其交ル所ノ國ト對シ約条ヲ
為ト^{正朔ヲ用ヒ}當リ時ト^{正朔ヲ用ヒ}レト^{正朔ヲ用ヒ}支那ハ正朔ヲ用ヒ時ト^{正朔ヲ用ヒ}レト^{正朔ヲ用ヒ}日本ハ正
朔ヲ用ヒ曾テ一定スル所ナキガ如キハ其証ナリ千八百五十四
年合衆國ケ己ニ支那ト和親ヲ結ヒシト聞キ以為ク合衆國ハ支
那ノ条約國ナリ未タ日本ノ条約國ニ非スト依テ米ノ艦隊長ニ
ルリト条約スルニ當リ支那ノ年号月日ヲ記セリ若シ此時日本

ノ年号月日ヲ記スル方ガ便ナレハ孝明天皇ノ正朔ヲ用ヒシナ
ラン
琉球ノ歷代諸王ガ不條理ナル外国交際ヲ行ヒ日本ヲシテ其責
ニ任セシムル者ハ西亞洲中特ニ支那ニミナリシ間ハ日本帝
更ニ心ヲ用ヒテ之ヲ制スルヲナカリキ是レ其實支那トノ交際
ヨリ國事ハ格別ノ影響ヲ引起スヲ無キヲ熟知セルガ故ナリ然
レモ改米諸國ケ東洋ニ現出シ来リテハ前日ノ如クナルヲ得ス
茲ニ初メテ心ヲ留メ琉球王ガ改米諸國ト訂定セル条約ノ原昏
ヲ東亞ノ外務省中ニ備ヘタリ是レ決シテ世人ノ評スル如ク該
条約昏ケ何程ノ効驗ヲ有スル故ニハ非ス持ニ之ガ施行上ニ争
論ヲ生スルモ原告人ケ照會ス可キ所ヲ定メ置カサレバ不都合
ナル故ナリ
日本ト琉球ノ利益ヲ慮リテ施行セル右ノ処分ノ外是迄日本帝

カ琉球人ヲ待ツノ寛大ナリシハ他ニ其例ヲ見ス民事宗教ヨリ
政治ニ至ルマテ尽ク十分ノ自由ヲ附與セリ千八百七十二年琉
球國ヲ改メテ藩ト稱ヘ王ヲ貶シテ日本貴族ノ上ニ位セシメタ
リト重氏而モ猶ホ後前ノ如ク藩王ヲシテ該地政府ノ首長ト為
セリ加之一分ノ丁壯ヲ徵セヌ一毫ノ租稅ヲ収メス然ルニ輓テ
近日ニ至リ(千八百七十九年)百事變改セラレ藩ヲ縣ト為シ帝國
諸縣ト同一ノ管轄ニ為サレ其王尚恭カ東京ニ左遷セラレシハ
皆是レホト琉球ガ密昏ヲ支那ニ送り尋テ又々東京駐劄ノ二外
國公使へ送りシヲ以テ送來ノ例外支配ヲ廢止シ嚴重ノ処分ヲ
行ハサル可ラサル場合ニ至ラシメタルニ因ルモノナリ抑モ今
回施行セル処分ハ琉球國ガ此度日本國ニ屬スルモノナリト固
ク証明スル主意ニシテ日本ハ何人ナリトモ此事ニ控喃スルヲ
許スマジ

以下次号

